

函館西部まちぐらし共創サロン

「あって当たり前」のモノやコトを 自分たちで創る活動

20250208

函館工作座

和西(岡本) 誠(未来大学)、鳥倉 真史(くらcra)、
松尾 美来(函館西高校)、川崎 真一(弁天町在住、元公務員)

工作座は多様なメンバーで構成。
4名の代表者が活動を多視点で紹介します。

和西(岡本) 誠

公立はこだて未来大学OB/ 特命教授

専門：情報デザイン、共創

函館工作座 座長

1'40"

インドネシア漁師さんがデザインに参加
(© JICA, marine_IT project)

研究

- ・ 視覚障害者が環境を理解できるITツール
- ・ 漁業者が参加して開発する漁業ITツール

当事者が共創することの大切さ



視覚障害者向け環境探索装置(© future body project)



© 函館工作座, 2025.

2019 函館市西部地区再整備事業基本方針
(検討会議座長)
「共創のまちぐらし」

「共創って?」、「皆忙しいから参加しないよ」

共創を実践して、何ができるか考えたい

- ・ 函館西高 「探求の時間」
- ・ 国立視力障害センター

「みんなで畑」 「あはきPV」

- ・ **地域に根ざしたモノ・コト作り**

「坂道ベンチ」 「函館工作座」

函館市西部地区再整備事業基本方針より抜粋

共創とは

**立場や知識の異なる人が協働して
新たな価値を生み出すこと**

その効果として

- ・ **イノベーションが生まれ**
- ・ **相互学習**
- ・ **創造的な文化**

坂道ベンチのきっかけ

鳥倉 真史（家具職人、旭川から移住）さんとの出会い

「函館に根ざした仕事をしたい」

共創：地域の人と一緒にものづくりを



仲良しベンチ

椅子が斜めになっていて、二人の距離が近づき自然と仲良くなれます。座ってみてください。

函館西高等学校+座員
制作：くらcra合同会社
設置者：函館工作座(道路占用許可済)
2024.06

暮らしの美



幸の空 旧鍛冶町の椅子

函館に来てまもない頃に街の空に魅了された。その空をイメージして鉄の脚をデザインした。

園田和亮+座員
制作：くらcra合同会社
設置者：函館工作座(道路占用許可済)
2024.06

暮らしの美

鳥倉 真史

くらcra合同会社 代表社員

旭川から移住、2019から函館どつくの側で家具工房

4'20"

start

クルクルスケッチ

札幌市立大学

福田先生

皆の力でアイデアを
成長させるスケッチ法



field work

幸坂周辺

住民へのインタビュー
街歩き体験

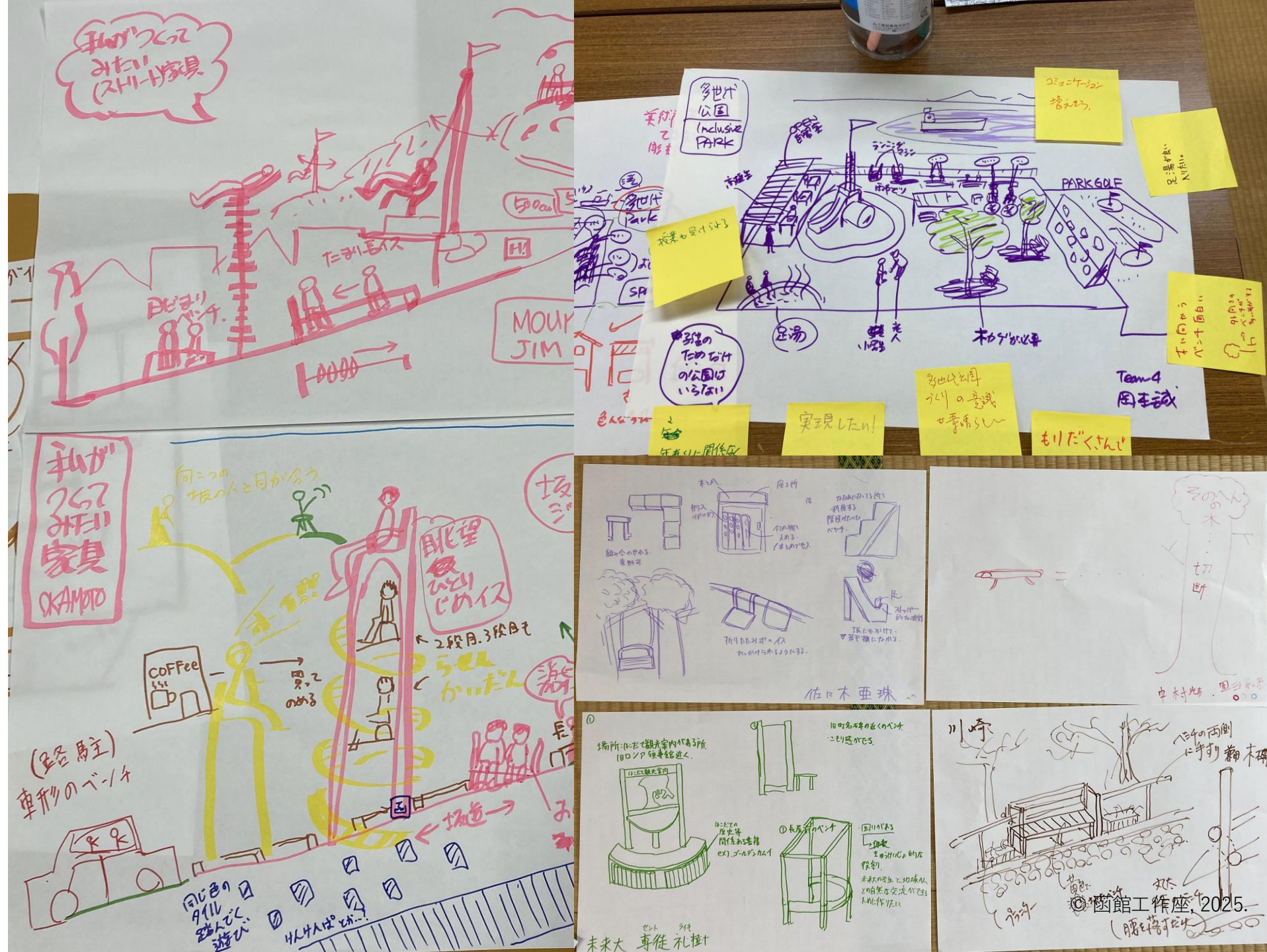


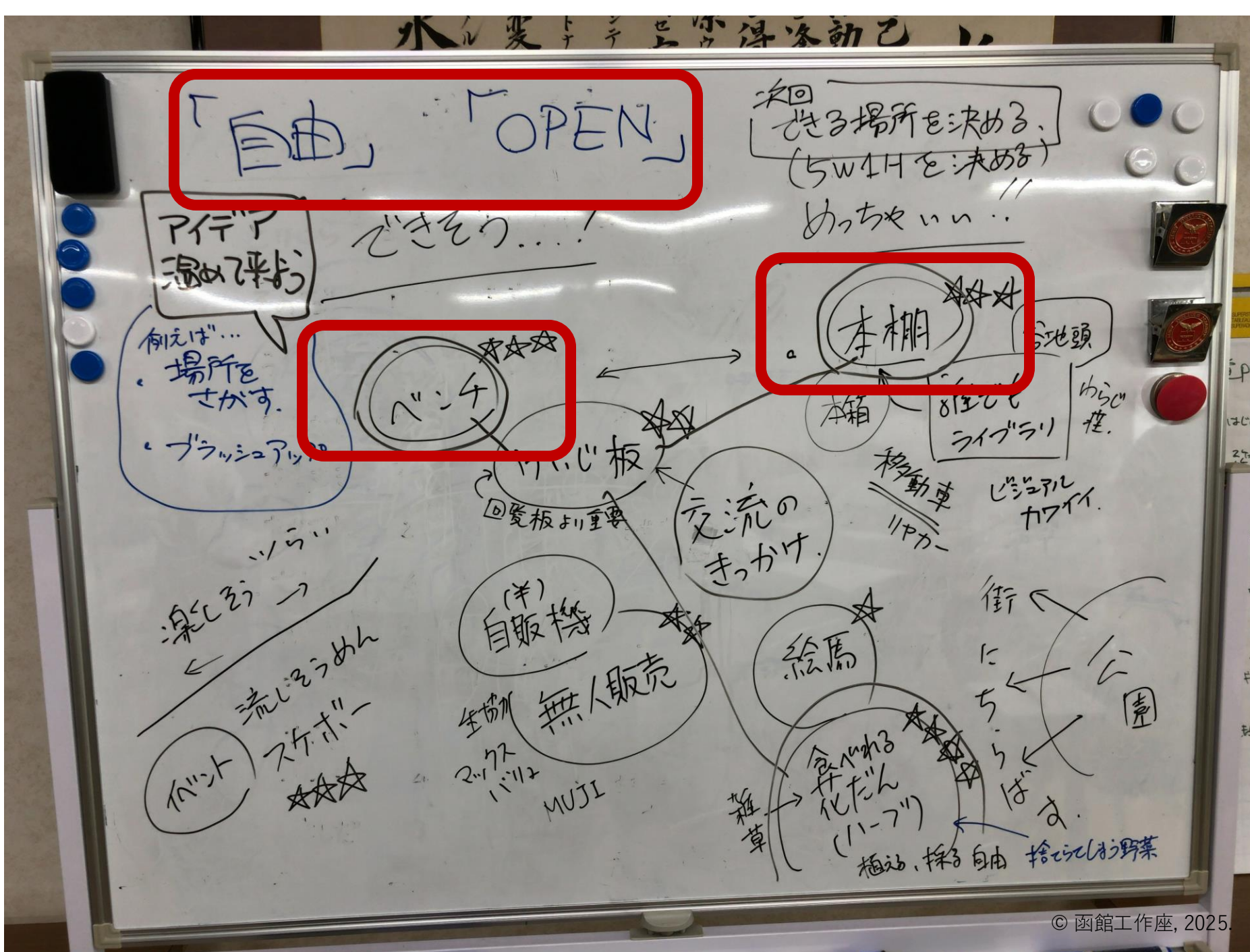
今の坂道のあたり前

- ・坂きつい
- ・家に籠る
- ・草ぼうぼう
- ・自作の椅子



たかさんの アイデアスケッチ

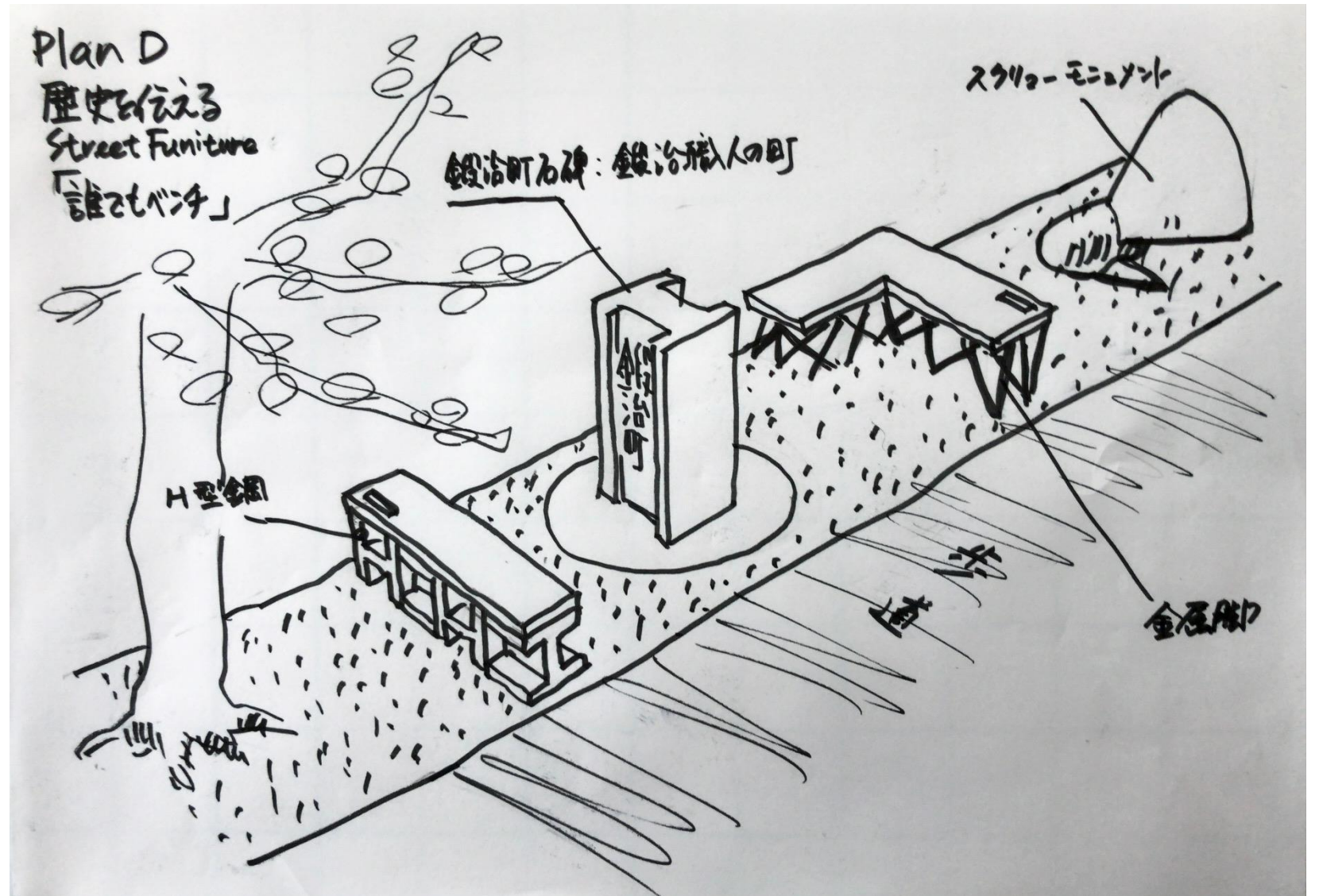




sketch

旧鍛冶町の石碑や港の
眺めを愛でるベンチ

鉄製



設置許可

- ## ＞函館工作座 設立

© 函館工作座, 2025.

making

幸の空

旧鍛冶町の椅子

金属加工中



making

仲良しベンチ
塗装作業中





Establishment

函館工作座



函館工作座

「市民と一緒にモノ・コト作り」

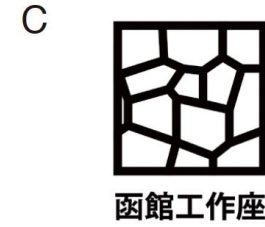
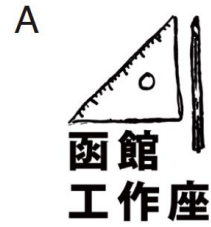
あって当たり前のを皆で創る

市民が協働して文化・風土・生活に根ざした
モノ・コト作りの活動を興すコトを目的にする。
誰もが創作し考える循環を再興し、
創造性と機知に富んだ文化を育てる。

地域住民、木工・金工職人、西高生徒/教諭、
未来大学生/教員、建築家、視力障害センター、
札幌市立大学ほか

Establishment

口ゴ案



参加する意味

- ・ まず行動してみる
- ・ 続けていくことが大事
- ・ 形が変わっても良い

松尾 美来

函館西高校 3年生

1'50"

私は、友人に誘われたことがきっかけで、
約2年間、函西クリエーションのメンバーとして参加しました。

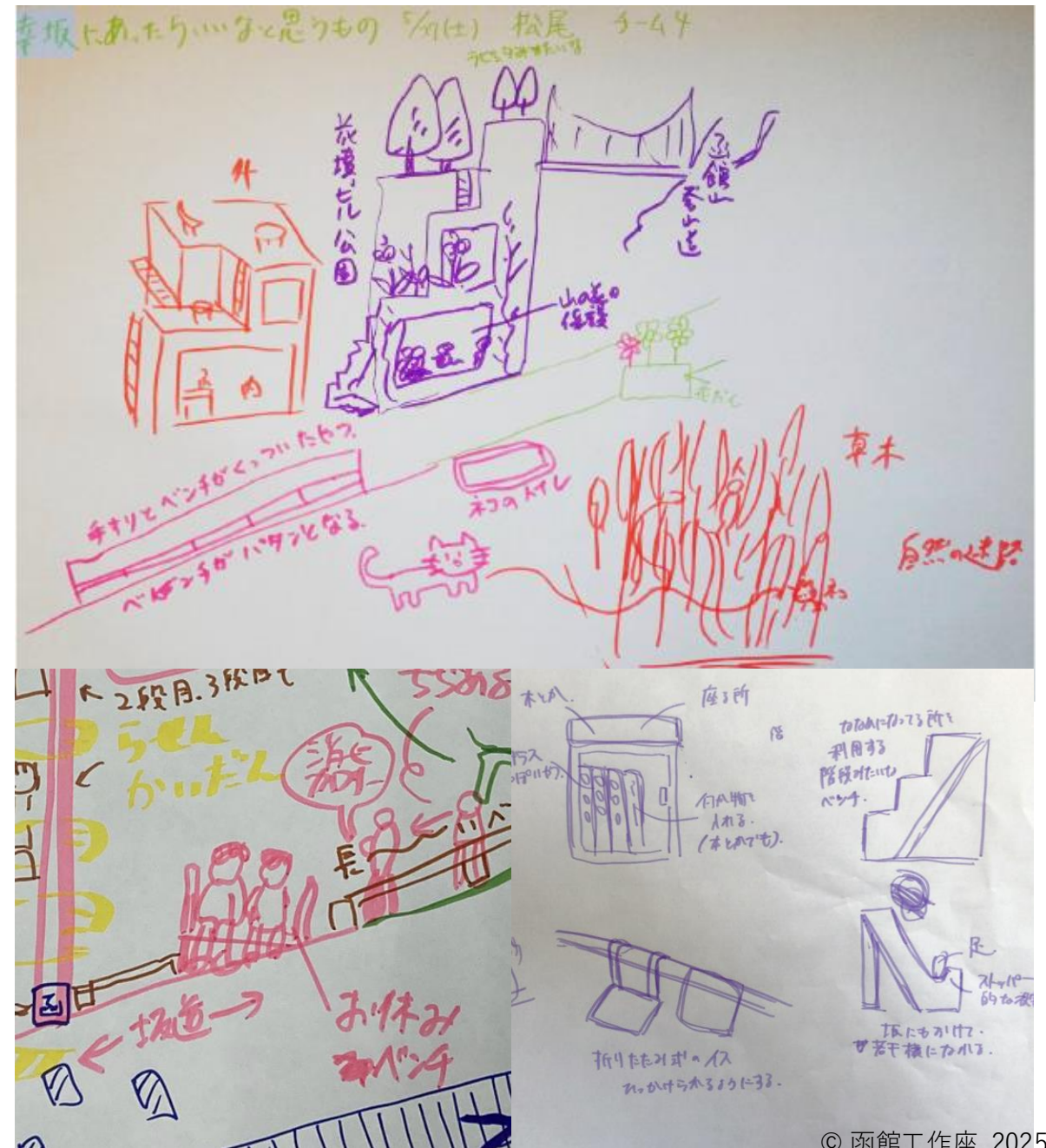
函西クリエーションは、授業で行う探究活動に加えて
個人の探究をさらに深めることができる場です。

「幸坂にあったらいいな」
みんなで考えました。

まず幸坂の周辺を

みんなで散策し、

クルクルスケッチをしながら
アイデアを出し合いました。



私は、みんなで計画を立て、実際にモノを作るという
過程がとても新鮮に感じました。

これまで、こうしたものづくりに関わることは
少なかったですし、みんなでアイデアを出し合って
作り上げていくことは滅多にない経験だったからです。

こうした活動を続けていくうちに、
メンバーとの交流の機会も増え、
気軽に話しかけてくれる方もいて、
とても嬉しかったですし、
人とのコミュニケーションの練習にも
なりました。

ベンチが完成した時は
みんなで協力して
かたちにできたことに
達成感を味わえました。

これからも次の代でも色々な
活躍を楽しみにしています。



川崎 真一

弁天町在住、元公務員

1'50"

幸坂を歩く

最初のフィールドワークが企画された時に、
鳥倉さんから案内役を頼まれ、
以来、メンバーとして参加しました。

ベンチの設置計画が具体化した時には、
市役所土木部と協議し、
また、「道路占用許可」申請時には、
岡本先生、鳥倉さんに同行しました。

今回ベンチを設置した場所は、
幸坂の緑地帯で、道路用地の一部です。

申請するには、団体の設立が必要だったほか、
維持管理計画作成等の条件が付され、
(安全面からの定期的な点検、草刈り、清掃の実施など)
相当ハードルが高いと感じました。

道路管理者 函館市長 様

道路占用 協議 許可申請書

住所 〒040-0055 幸坂

氏名 〇〇

担当者 TEL 〇〇

道路法 第32条 第35条 の規定により

占用の目的	路線名	占用の場所	占用物件	占用の期間	工事の期間	道路の復旧方法
地域住民の利便のため	幸坂通り	弥生町2番地先	ベンチ	令和6年6月9日 から 令和10年3月1日 まで	令和6年6月9日 から 令和6年6月30日 まで	現状復旧

備考

「せっかく高校生や大学生から
アイデアをもらってきたのだから、
簡単に諦めるわけにはいかない。」

お二人の強い思いで、今回の成果となったたわけ
です。

西部地区は、人口の減少で顔見知りのご近所さんが
どんどん減っています。

街中にベンチを置くことができれば、
住民同士会話を交わすきっかけにもなり、
顔見知りを増やすことができるかも知れません。

住民の「暮らしの質」を上げる
ことができます。

デンマークの建築家
著名な都市空間デザイナー
「ヤン・ゲール」は、

「良い街には座る機会
がたくさんある」

と言っています。



ヤンゲール「人間の街」 <https://goodlocalarki.wordpress.com/2016/02/19/>

今回の函館工作座の活動をきっかけに、

「腰を下ろす場所を増やす共創まちづくり」
が展開されていくことを私は期待しています。



最後に

20"

ふりかえって

- ・用に即した自然な美
- ・指示されたわけではなく皆が自ら動き出した
- ・議論するのではなく表現
- ・困難は創造の糧
- ・楽しくあること

共創は、ジャズのように

next
step

【影 KAGE】

- 日没時に影がきいりに付く場所を
みつける/つくる。
- 影(光)を身しおオブジェを作る。

夕日を楽しむオブジェ



街の灯り：太陽光×IT

【Save the 光の消滅都市】

- ・街から光が消える!
- ・西部地域は、古い灯が点在する。
- ・光を消す工夫を試行錯誤する!

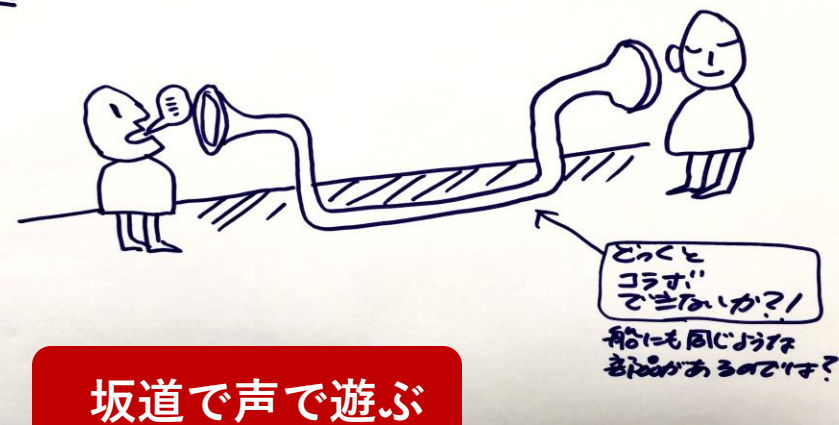


【海の音が聞こえる】



地面を伝わる音を聴く

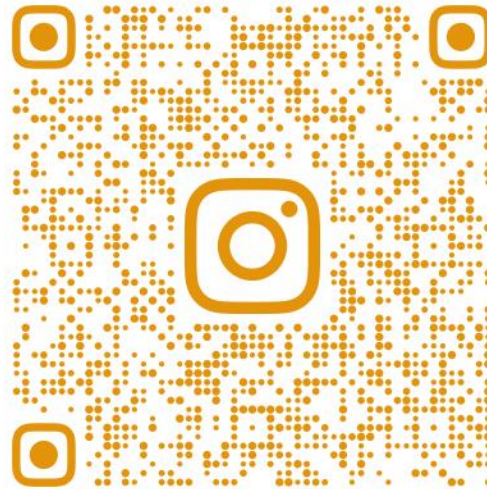
【伝声管】



坂道で声で遊ぶ

目標：楽しくモノコト作り

参加・応援してください！ 活動はインスタで公開しています。



@HAKODATEKOUSAKUZA